



Newsletter

No.97

2026年7月1日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原2-22-17-108

https://www.labornetjp2.org

電話・FAX 03-3530-8578

新サイト「レイバーネット 2.0」が始動しました

—シニアからミドルへ世代交代も—

レイバーネットが2001年スタートして今年は26年目に入りました。ウェブサイトは活動の柱ですが、旧システム(ZOPE方式)は限界に達して「重たい、遅い」と不評でした。そのため数年来、試行錯誤で対策にあたってきました。そしてついに、2026年1月1日を期して「ワードプレス」を導入して全面リニューアルを行いました。SNSの相性もいいです。

さっそく反応がありました。関西の仲間から「何と!! 全面リニューアルですか。すごいですね。すっきり見やすくなりました。今風ですね。Wordpress でしょうか?」のうれしいメールが来ました。また「新しくなり、見やすくなって嬉しい」「新しいイベントカレンダーはとても反応早く拝見できて読みやすい」など評判がよかったので、胸をなで下ろしています。

2月の高市政権の登場で世の中は悪くなる一方ですが、ペンライト行動など「改憲反対、戦争反対」の若い人のうねりが確実に起きています。

新サイトは「レイバーネット 2.0」と名付けました。レイバーネット 25年の歴史を踏まえて、「次世代型」にステップアップするという思いがあります。シニア中心の今の態勢からミドル中心に、そしてヤングへと徐々にパトタッチを進めていきたいと思います。

●紹介リーフレットができました

最近、大学生の飛び込み入会がありました。少しずつ広がっているレイバーネットですが、「レイバーネットってなに?」という声が多いです。そこで紹介リーフレットをつくる話が持ち上がり、会員の田中進さんを中心に制作が進みました。ぜひご利用ください。



●レイバーネット TV、渾身の企画がつづく

今年前半のレイバーネット TVは、以下の放送を行いました。

- 224号放送 1/21 緊急特番「ベネズエラ情勢をどう見るか」
- 225号放送 2/17 2026春闘：非正規労働者の闘い
- 226号放送 3/10 3.11から15年～フクシマ特集

レイバーネット活動案内

- レイバー映画祭 7月25日(土)
板橋区グリーンホール
- 夏期合宿 8月22日(土)23日(日)
SCAT セミナールーム「毛呂分室」
- レイバーフェスタ2026 12月27日(日)
板橋区グリーンホール

- 227号放送 4/15 住まいは人権—家賃高すぎ、何とかしろ!
- 228号放送 4/24 光の革命展開中! 菱山南帆子さんに聞く
- 229号放送 5/27 マスコミが伝えないイランの本当の姿
- 230号放送 6/10 ヨコスカから見えてくる「戦争」

月に一回でしたが、各回とも「アクティブ・ラジカル・現場から」にふさわしい充実した番組になりました。とくに「ベネズエラ」特集(伊藤千尋)、「光の革命」(菱山南帆子)はタイムリーな企画で、視聴数も大きく伸びています。世の中YouTube時代でネット放送があたりまえになりましたが、レイバーネットは「老舗の味」をしっかりと出していきたいと思えます。

●レイバー映画祭

『ロサンゼルス教員ストライキ』初公開

7月25日(土)に板橋区グリーンホールで開催される、今年のレイバー映画祭のラインナップが決まりました。上映するのは、『無理しない ケガしない 明日も仕事 新根室プロレス物語』『国会前ペンライト行動』『チリライジング』『郵政クビ切り物語』『懲罰自転車』『When We Fight ロサンゼルス教員ストライキ』などです。本邦初登場の『When We Fight』は、停滞している日本の労働運動に「たたかう元氣と息吹」を伝えてくれるでしょう。「三多摩レイバー映画祭」で大好評だった『懲罰自転車』も見逃せません。詳細は同封のチラシをご覧ください。



●「共同テーブル」が平和川柳を公募

作家の佐高信さんが代表を務める「共同テーブル」ですが、5周年を記念して特別企画「7.18 平和推しフェスティバル」を開催することになりました。文化表現に力を入れた企画で、乱鬼龍氏はじめレイバーネットメンバーが協力しています。とくに参加型企画の「平和川柳、ショート動画」では、レイバーフェスタで培ったノウハウを提供し、一緒に盛り上げたいと思っています。テーマはずばり「平和推し」。「戦争する国」を止めるためにみんなで声をあげていきましょう。7月18日(土)場所は映画祭と同じ「板橋区グリーンホール」です。詳細はチラシをご覧ください。

財政を応援してください

2面に昨年度の財政報告がありますが、みなさんからの会費・カンパのおかげで一時的危機を乗り越えることができました。しかし多額の新サイト構築費用や物価高騰の影響で支出が増えており、楽観できない状況です。安定財政にするためにはあと50万円が必要です。諸事情をご理解のうえ、会費・カンパの納入を切にお願いします。宛名のところに会費納入状況が記載されています。同封の振りかえ用紙をご利用ください。(事務局)

レイバーネット・各プロジェクト報告

フィールドワーククラブ

三里塚の闘いは終わっていなかった

4月29日、レイバーネットは三里塚フィールドワーク



を行った。あいにく曇天の寒空だったが、総勢23人の参加者は三里塚の熱い闘争の歴史を感じることができた。三里塚の闘争は1966年から始まる。突然の空港建設の話に、地

域の農民たちは立ち上がった。その闘争は今でも続いている。私たちはまず、「空と大地の歴史館」を訪問した。ここは成田空港株式会社（NAA）が運営している。成田空港が開港するまでの抵抗運動から建設中のC滑走路やB滑走路の延伸のことまで展示している。闘争のヘルメットが並んでいて生々しい。どこで手に入れたか、『腹腹時計』まで置いてある。また開発によって多くの寺社が無くなる予定で地域の祭事や神事も失われていく。そんな特別展までもある。短い時間だったが、三里塚闘争の全貌が何となくわかった。（根岸恵子）

あるくラジオ

豊富な海外取材から見た世界の反戦運動

第33回の「あるくラジオ」（3月27日放送）は、『週刊MDS（民主主義的社会主义運動）』編集スタッフの浅井

健治さんをゲストにお迎えし、豊かな海外取材の経験をお聞きする場になった。2001年の9・11同時多発テロ直後、アメリカ・ワシントンで開催された「報復戦争を許さない」大集会には、急遽参加した。2万5千人が集まった集会は、寝転んでいたり、歌を歌ったり、スピーチも3分以内、自由な雰囲気があふれていた。シュプレヒコールは「戦争はテロの答えではない」「答えは（戦争に反対している）我々だ」。プラカードも各自手製のものが多く、アメリカの反戦運動が、一人ひとりが発することばを持っていることに、ものすごく感動したそうだ。（ささきゆみ）

ブッククラブ

精密なデータ分析に基づく労作『新しい階級社会』

2月21日の読書会は『新しい階級社会—最新データが明かす格差拡大の果て』（橋本健二）をテキストにして、ズームにて開催されました。出席者は8名で活発な討論が広がりました。討論では、非正規労働者を「アンダークラス」、つまり階級と位置付けることへの疑問、また労働組合・労働運動、外国人労働者などに本書が触れられていないことなども指摘されました。精密なデータ分析に基づく労作であることには間違いありませんが、同時にレイバーネットTV225号「非正規労働者の闘い」などの捉えた現実も併せて考えてみたいと思います。（志真秀弘）

*各プロジェクトの活動の様子は「ウェブサイト」をご覧ください。

レイバーネット 2026 総会 会計報告

会計年度 2025年1月1日～12月31日

●基本財政

収入（会費カンパ等） 1,576,165円
 支出（ニュース、交通費、事務経費、各部費用等） 1,451,739円
 差引 124,426円 (a)

●レイバー映画祭 2025

収入（参加費等） 300,926円
 支出（会場費、映画代等） 303,000円
 差引 △2,074円 (b)

●レイバーフェスタ 2025

収入（参加費、賛同金等） 323,738円
 支出（会場費・ギャラ等） 203,230円
 差引 120,508円 (c)

●レイバーネットTV

収入（サポーター会費・カンパ） 126,000円
 支出 放送一式15回分 356,710円
 差引 △230,710円 (d)

●抵抗川柳句集

収入（売上げ） 556,570円
 支出（印刷費、ギャラ） 573,370円
 差引 △16,800円 (e)

★2025年度の決算 (a)+(b)+(c)+(d)+(e)=△4,650円

★2024年度よりの繰越金 1,272,560円

差引残高 1,267,910円（2025年12月31日）

〔2026年度運営委員〕29人（順不同）

河添誠・安田幸弘・尾澤邦子・松原明・土屋トカチ・堀切さとみ・根岸恵子・佐々木有美・杜海樹・安齋徹雄・森広泰平・須田光照・ジョニーH・乱鬼龍・白石孝・前田健司・稲垣豊・金野正晴・北穂さゆり・柴田武男・志真秀弘・黒鉄好・大場ひろみ・那須研一・井手窪啓一・土田修・後呂良子・橘優子・奥山貴重

〔訃報〕

レイバーネット設立メンバーで運営委員の高幣真公さんは、2026年1月14日に逝去しました。82歳でした。数年来、がんで闘病していました。高幣さんは、レイバーネットの「縁の下の力持ち」的存在で、25年間一緒に活動し、会を支えていただきました。亡くなる1か月前にお見舞いに行きましたが、頭はしっかりしていて、レイバーネットのこと、労働運動のことなど熱く語ってくれました。高幣さん、あの世から見守っててください。（松原明）



季刊『フラタニティ』42号

松原明の連載「歩き続けるレイバーネット第11回」

「光の革命」で民主主義を取り戻す

◆三里塚フィールドワークとシネクラブ

レイバーネットには「フィールドワーククラブ」がある。2022年5月の第一回は「軍都新宿と731部隊」をテーマに、新宿に残る加害の足跡を訪ねた。そして今年4月の五回目は「三里塚フィールドワーク」だ。企画を準備中に、『朝日新聞』が一面トップで「成田拡張 強制収用を検討」を報じた。私たちは三里塚闘争の過去の歴史を学ぶつもりだったが、いきなり「今」の問題になった。

フィールドワークに連動して「レイバーシネクラブ」は『三里塚に生きる』（2014年作品）の映画上映会を4月12日に開催した。定員15人の小さな和室に、19人がやってきた。ぎゅうぎゅう詰めの中、参加者は食い入るようにこの映画を観た。非常に優れたドキュメンタリーだった。私も三里塚体験があるが、初めて知ることや理解できたことがたくさんあった。映画の主人公は当時20代だった「青年行動隊」と「支援者」だが、映画収録時にはみな60代になっていた。「団結小屋」の住人・山崎宏さんは、なんで今なお続けているのか？というインタビューに、「若いときに農民の人権を無視した空港建設はおかしい、この世の中の仕組みは間違っていると思った。いまもそれはまったく変わっていない。だからやり続けている」とたんとと語る。すじを通した生き方に同時代人として深く共感した。

私は当時20歳のときに三里塚現地の「ある団結小屋」に数か月いて、援農をした経験がある。牛糞の掃除や農作業のきつさを生に体験したことは大きかった。口先だけの運動ではなく、労働・生活の場の大切さを教えられて、その後中小企業の生産工場で働く道を選び、労働運動を始めるきっかけになった。そしてあれから半世紀の長い年月が経った。20代の私も、すでに70代になっていた

◆「高市うつ」からの脱却

いま私たちは「戦争の時代」を迎えている。イスラエルのネタニヤフ、アメリカのトランプ、日本の高市が「力による政治」を推し進めている。「高市うつ」が蔓延するなか、2月20日の鎌田慧のある集会での発言が強く印象に残った。「私は80代後半だけど、若いころから世の中はだんだんよくなっていくと考えていました。つまり民主主義がどんどん浸透して行って、みんな自由に幸せになっていくと信じきっていました。けれど最近の様子をみると、若いころの希望が萎えてしまうような感じです。でもまあ、もう少し頑張っていこうという思います」と。まったく私と同じ心境だった。「平和・人権・民主主義」というあたりまえだった価値観が急速に後退している。とてもたまらない。

そんな気持ちのなかで「希望」を感じたのは、急速に広がる国会前ペンライト行動だった。「最近若い人が増えているよ」と聞いて半信半疑だったが本当だった。渋谷で見るような若い女性が光り物をもってデモに来ていた。私が初

めて取材したのは3月19日。議員会館前の歩道は人、人、人であふれ、満員電車の車内のような状態だ。自由に歩けない。人波は、国会図書館前から、議事堂前の歩道まで広がっていた。

回を追う毎にペンライトをもつ若者が増えていった。なぜかれらが立ち上がったのだろうか？私はビデオカメラを片手に片っ端からインタビューした。23歳の女性は私の質問にこう答えた。「日本は平和だし今まで余り考えてこなかった。でも最近、日本は戦争するかもしれないと怖くなった。声をあげなければいけないと思った」と。こうした回答をした若者が多かった。ひとことで言えば「迫りくる戦争への危機感」である。

主催者側もこれまでの政治色が強い集会スタイルを変えて、敷居を下げ、だれでも楽しく参加できるスタイルにしたことが成功した。それが韓国のキャンドル行動から学んだ日本式「ペンライト行動」だった。菱山南帆子さんは「戦争の道に歩もうとする高市日本を止めるために、憲法9条を活かす時だ。民衆・市民の力を信じて『光の革命』を起こしましょう」と訴えた。一人ひとりが本気で世の中を変えようと動き始めたとき、その一人ひとりの総和は確実に世の中を変える力になると私は思っている。それが、まさにベトナム反戦運動や三里塚闘争が華やかだった時代に起きたことだ。

◆これからどうするのか？

「九条壊すな」運動をリードしてきた高田健さんにデモの現場でお会いした。私が「これからですね」と水を向けると、かれは「そうなんです。火がついたこれからが難しいのです」と複雑な表情をみせた。私もそう思う。改憲に一気に進もうとする高市政権のもと、民衆とのたたかいは今後、ケタ違いに発展するだろう。「ペンライト行動」の広がりにワクワクするとともに、政府の弾圧・懐柔も必ずやってくる。それをはね返すためにも、過去から学ぶことが大事だと思う。

三里塚闘争には光と影があった。百姓たちの体を張ったたたかいが日本中に感動をよび、巨大なムーブメントを巻き起こした。しかし、1971年の第二次代執行のときの衝突では、警備の機動隊員3名が死亡した。この事件を契機に運動の波が引いていった。当時の新左翼は「実力闘争」（火焰瓶、投石など）を掲げていて、機動隊に勝てばなんとかなると考えていた。そうした学生運動の「頭でっかち」の発想は、その後の「内ゲバ」などにもつながっている。残念なことにその「影」は未だに克服されていない。

今回の「戦争反対、改憲反対」の運動がどうなるかはわ
(4面下段へ)



新会員紹介

●横須賀の月例デモに関わっています

堀川信一

地方公務員を数年で退職、以後は従業員数名の広告代理店、写植業、印刷会社と渡り歩き、最後は自営業を約20年という職歴で、労働運動や市民運動とは無縁でした。1998年、52歳の時、ある学習会で武藤一羊さんに、神奈川県で市民運動にかかわりたいと相談しましたところ、非核市民宣言運動・ヨコスカを教えてください、新倉さん（レイバーネットTV第230号に登場）と連絡を取り、横須賀の月例デモ（写真）に加わるようになりました。数年参加し、ぷつりとやめ、しばらくしてまた参加、そしてやめ



るといい加減さでしたが、事情が許せばまた行きたいと思っています。その間、好運にもレイバーネットに出会い、今回入会しました。よろしくお願いたします。

●「すっきり分かりやすい」新サイトにひかれて

山本邦晴

山本邦晴です。以下に自己紹介を記します。数カ月前、久しぶりにレイバーネットのサイト画面を見てすっきりとして分かりやすい画面になっているので、これなら入会しようかと。2000年代に東京本社に勤めていたころ、レイバーネット関係のイベントに何度か参加したことがあります。川柳を学び・作る会とか戦前の労働歌を学び・歌う会とか、楽しくすごしました。父母ともに浜松の空襲で焼け出された体験があったせいか、貧しい生活の中で戦争反対は当たり前という気持ちになりました。昨今のデモ・スタンディングの盛り上がりは意を強くさせてくれます。これに寄与したサイト「デモカレンダー」は、ようやくインターネットの正しい使い方が出現したと評価しています。2021年まで48年間、共同通信社で働きました。73歳です。

●「住まいは人権」ひとすじに

坂庭国晴

今年1月から会員になりました。よろしくお願いたし

からない。でも「ペンライト」に象徴される「非暴力直接行動」の発展こそが希望だと思う。「非暴力」こそを、政府がもっとも恐れている。暴力なら国家の暴力でねじ伏せることは簡単だからだ。日本は戦後、アメリカから「民主主義」をもらったが勝ち取ってはいない。私たちの「平和・人権・民主主義」が弱いのはそこに原因があるのだろう。これか

ます。思い起こせば半世紀前の1975年、当時の世界労働建築インター大会（チェコ・プラハ）に日本代表団の一人として出席し、日本の住宅政策を報告したのがスタートでした。7年後の1982年、「住まいは人権」の実現をめざす日本住宅会議（市民に開かれた学際的研究組織）の結成に参加。以来40年以上に渡り住宅運動と住宅問題の調査・研究などに携わってきました。これからも、住宅政策の転換のために多くの方々と力を合わせます。趣味は俳句などで、○国会前のペンライト萤火や、○戦争やめよ平和への額の花、を建設政策誌の「けんせつ歳時記」7月号に投句しました。（さかにわくにはる）

●「墓に入るその時くらい別姓で」

幸柳

新会員の幸柳（川柳名）です。レイバーネット川柳句会で乱鬼龍さんに川柳とは何ぞやというレベルから教えて頂いています。私のこれまでの作句の一押しは「墓に入るその時くらい別姓で」です。ガザ・パレスチナ問題は世界の様々な矛盾の象徴的な現れであると考えています。大航海時代そして産業革命を通じて、世界はヨーロッパ人によって分割統治差別略奪され続けてきました。彼らは自分たちの富を貪欲に求め、アジア・アフリカ・中近東の人々の生活を破壊することに何ら良心の痛みを感じませんでした。ガザ・パレスチナは80年以上にわたり、ヨーロッパ各地から集まったシオニストによって故郷を追われ今なお土地も命も奪われ続けているのです。私は『平和のための日本民衆外交団』としてガザ・パレスチナ救済活動をしています。

●「日米2プラス2」に危機感

磯村優子

レイバーネットを初めて知ったのは、2024年7月の「2プラス2」（日米安全保障協議委員会）への抗議行動の呼びかけでした。防衛省と米軍が指揮統制の枠組み強化、武器の共同開発・生産の促進、米国の「核抑止」強化など、危険な課題だらけだと投稿されているのをみました。これを知り、知り合いと何かしたいとなり、抗議のこえを届けようと飯倉片町まで二人で行きましたが、周りの人と合流することもなく、二人で書いてきたプラカードを公館へ向かって持っているだけでした。情報をもっと知りたいと思い、このMLに登録することができるのを知り申込みました。皆さんからの情報を読み込むのが精一杯ですが、これから情報を活かせるようになりたいと思います。よろしくお願いたします。

ら大変な時代になるが、一人ひとりの自覚と行動こそが「平和・人権・民主主義」を取り戻す道だと思う。（2026年4月20日記）

*季刊『フラタニティ』42号（2026年6月）は880円、申込みはロゴス社 Tel 03-5840-8525

レイバーネット日本の会員になりませんか 現会員数 550名/ウェブアクセス1日2,000

会員になれば、ウェブサイトやメンバーリストを通して「情報発信」ができます。また「レイバーネットTV・川柳・シネクラブ・ブッククラブ・映画祭・フェスタ」など多彩なプロジェクトに参加できます。一緒に「みんなでつくるみんなで変える」ネットワークを育てませんか。

年会費 A会員 3,000円 B会員 5,000円
（AもBも違いはありません。余裕のある方はぜひBで）
郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本
銀行口座 きらぼし銀行 小竹向原出張所（普）5002960
連絡先 TEL&FAX 03-3530-8578